

ECO で楽しむ暮らし

手軽に断熱 手づくりの暖かさ

エコの対極が環境破壊とすれば、それが最も大きなスケールで表れているのは地球温暖化問題で、その対処がエコライフの最重要テーマとなる。温暖化の主因はエネルギー多消費による二酸化炭素の排出である。

今の季節は暖房用のエネルギー消費を抑えることが、エコロジー・エコノミー両方から必要になる。

少ないエネルギーで部屋を暖かく保つには、窓や床などから逃げる熱を抑えるのが基本。建物の断熱性能を本格的に改善しようとするれば、それなりの改修工事になるが、今回紹介するのは、手軽に出来る「手づくり断熱改善のすすめ」である。

第一の方法は、部屋に窓が二つある場合、一つを冬の間は断熱ボードで塞いでしまうこと 写真。窓



ガラスからの熱ロス、断熱された壁より桁違いに大きいから効果は抜群だ。

ガラスの結露防止を主な目的にした半透明のシートもあるが、断熱ボードの方がはるかに効果が大きい。

窓が一つしかない場合は、雨戸のように夜だけ塞げば良い。夜だけなら暗くなる難点も解消され、主な暖房時間は気温の下がる夜だから効果がある。

材料は固い発泡ポリスチレンボードでも良いが、

フェノール系の断熱ボードは同じ厚さで2倍近く断熱性が高い。カーテンを閉めれば、仕上げのない材料そのままでも気にならない。

次は扉の断熱。窓だけでなく、結露するような金属ドアや勝手口ドアも熱の逃げ道である。古い公共住宅で一般的に使われている鉄板一枚の玄関ドアは、内側から断熱ボードを貼りつけると効果が高い。

それが難しければ、天井近くに突っ張り棒を渡して、厚手のカーテンを吊るのでも暖かさを実感できる。これはカーテンと言うより暖簾に近い。本来の意味の通り防寒用の垂れ幕だ。

三番目の方法は、床下の換気口を塞ぐこと。対象は戸建て住宅に限られる。床下に湿気が溜まらないように、基礎の所々に換気口があるが、これらを冬の間だけ閉じてしまえば、床下から逃げる熱を減らすことができる。ただ、湿気の多い地盤ではお勧めしない。

塞ぐ材料はダンボールを数枚重ねたもので十分。少し大き目に切って押し込むように固定する。春になって取り外すため紐をつけておくと便利だ。

自宅で類似のことをしたら、閉じた床下の平均気温は開放された床下より約3度高かった。湿度は40%前後で心配ない。

手づくりは大量生産と逆の手法といえる。住み手自ら住まいを改善するのは、省資源にかなうだけでなく結構楽しい。

熱ロスの大きな箇所を見つけて手軽な断熱改善をすることで、エネルギー消費を減らしながら暖かく冬を過ごせる住まいにしてみたいか。

(大阪ガスエネルギー・文化研究所研究主幹 濱恵介)

濱 恵介 (はま・けいすけ)

1968年に東京大学工学部都市工学科卒業後、住宅公団で住宅団地の計画・設計に携わる。98年から大阪ガス エネルギー・文化研究所に勤務。エコロジカルな住まいと暮らし方を研究・発信している。

著書に「わが家をエコ住宅に」(学芸出版社)がある。